



**基本
理念**

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

第6回都城消化器疾患合同カンファレンス

2018年4月13日 19:00～20:30

H30年4月13日「第6回都城消化器疾患合同カンファレンス」を当院の大会議室で開催いたしました。都城の各施設の内科・外科から下記の5つの症例提示があり、各症例に対し熱心な討論が行われました。なお、終了後は近くの食事処で各施設のスタッフが集まり交流・意見交換会を行いました。

<演題>

1. 膝頭部癌に対して施行された膝頭十二指腸切除 (PD) におけるArtery-first法と従来法の手術成績の比較
都城医療センター 外科 森永 剛司
2. 下腸間膜動静脈瘻を合併した胃・直腸同時性重複癌の1例
都城市郡医師会病院 外科 甲斐 健吾
3. 抗血栓薬投与中の緊急胆囊摘出術の検討
都城医療センター 外科 緒方 健一
4. 最近の潰瘍性大腸炎新薬の使用報告
都城医療センター 消化器内科 藤原利成
5. 癌性腹膜炎を呈した高度進行胃がんの集学的治療症例 結果報告
都城医療センター 外科 後藤 又朗



外科の特色



外科部長
緒方 健一



外科医長
田中 洋



外科
杉原 栄孝



外科
森永 剛司

当科は日本外科学会の指定施設および日本消化器外科学会の認定施設として、平成29年度は、沖野哲也、田中洋、杉原栄孝、松村和季、平成30年度からは緒方健一、田中洋、杉原栄孝、森永剛司の4名のスタッフで診療を行っています。4名が1つのチームとなり、毎朝カンファレンス・回診を行うことによってスタッフ全員が情報を共有し、チーム医療を実践しています。スタッフ一同、都城市その近隣の地域で完結できる診療を推進しています。

疾患としては、主に、食道癌、胃癌、大腸癌、肝胆脾癌などの消化器癌を中心に、手術や化学療法を行っていますが、それ以外に胆石・総胆管結石、腸閉塞、ヘルニアなどの良性疾患についても、診療・手術を行っています。また、消化器以外では、乳癌に対する手術・化学療法などの治療も数多く手がけています。

最近は、数多くの消化器疾患に対して腹腔鏡手術を実践して、患者さんに負担の少ない外科治療を積極的に行っております。また、鼠径ヘルニアについても腹腔鏡下手術（TAPP）を第一選択とし、症例を積み重ねています。腹腔鏡手術は、小さな創で行うため、開腹術に比べ患者さんの負担が少なく、美容上も優れた手術とされていますが、手術時間が長く、技術的な差異による合併症も問題となっていました。しかしながら最近では、器具の発達や技術の向上・安定により、手術時間は開腹とほぼ同等となり、また、拡大鏡でき、狭いスペースでも挿入できるため、出血量も開腹に比べ格段に少なく、合併症もかなり少なくなってきて、術後の社会復帰が早くなり、患者さんに恩恵を与えていたりと考えています。また、我々は、学会や研究会などに積極的に参加し、最新の技術習得に努めて、治療成績の向上を図りたいと考えております。

さらに肝葉切除や脾頭十二指腸切除など肝胆脾癌の高難易度手術についても積極的に行っており、治療成績を高めています。しかしながら脾癌は現在でも予後が悪いため、術前化学療法（NAC）を施行し、腫瘍を縮小させた後、手術を行う試みがなされています。

元来、消化器癌は化学療法が効きにくいと言われていましたが、ここ近年は新規抗がん剤や分子標的薬の登場により、治療成績が著しく向上してきております。我々も各癌の治療ガイドラインにのっとって治療を行っており、新しいレジメンがでれば、それを早急に導入して予後の延長に努めたいと考えています。

当科では、手術や化学療法のみならず、内視鏡治療、とくに総胆管結石や胆道系悪性疾患における逆行性胆管膵管造影（ERCP）ならびに胆道ステント挿入を行っております。さらに超音波下の経皮経肝胆道ドレナージなども行い、減黄処置も実施しています。さらに消化器内科や放射線科とも連携し、集学的治療も行っています。

高齢化に伴い、重篤な併存疾患をかかえた胆癌患者も多くなってきており、それぞれの置かれている社会環境も考慮しながら治療法を選択していく機会が増えてきています。そのため、医師のみならず、看護師やリハビリ、栄養士、薬剤師などのコメディカルも含めたチーム医療で個別の患者に対応していく必要があると考えます。さらに、終末期医療についても、QOL（生活の質）を重視し、緩和ケアチームや地域病院と連携して積極的に介入を行っていきたいと考えています。

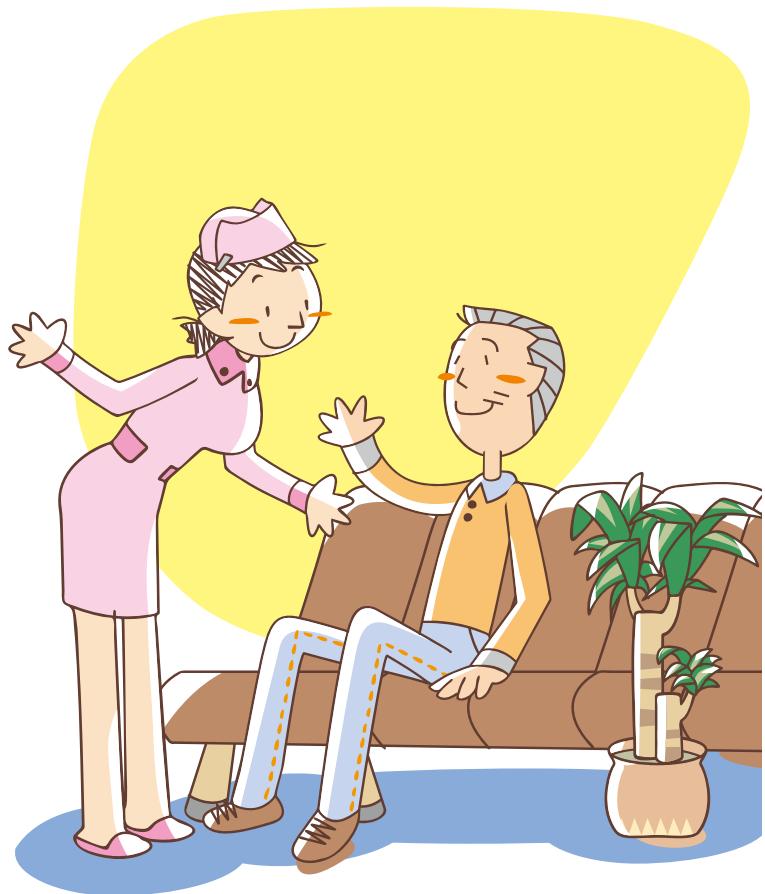
在宅サポート病棟始めました

今年の3月1日から4階病棟で在宅サポート病棟を開設いたしました。これは当院で手術などの治療を受け、元気になって自信を持って自宅などに退院することを応援する病棟です。最近の先進的な急性期病棟での治療は、クリティカルパスなどにて治療内容・入院期間などを前もって決めておき、それに従い皆同じように均等で無駄のない治療を目指し、そのため退院期間は短く設定されているのが一般的な医療状況です。

しかし、人は基礎体力に対する自信や持病の有無などで健康状況もそれぞれ異なります。手術後すぐに元気になり仕事に復帰できる人もあれば、自信が持てないのに退院となり不安なまま自宅に戻るのは困るため、リハビリなどを納得できるまで実施してもらいたい、食事摂取が納得できるようになってから安心して自宅に退院したいなど、退院延長を希望される方もおられます。

そのため、患者様本人だけでなく、独居の高齢の親御様を心配されるご家族の希望にも応えることができるよう、在宅へのさまざまなリハビリなどを追加して、自宅退院に向けてのサポートを提供し応援します。このようにそれぞれの自宅に自信を持って帰れるよう患者様やご家族にやさしい病棟として開設いたしました。希望されれば手術などの治療後にこの病棟への転棟も可能となりますので、いつでも当院スタッフにご相談ください。

(統括診療部長 後藤 又朗)



平成30年度 就職説明会に参加して



知り、将来助産師を目指したいと興味を示す方もいました。

個別ブースでは、卒後教育についての質問が多くありました。国立病院機構では全国統一の「能力開発プログラム」に基づき研修や現場教育を行っており、当院では、がん看護や口腔ケア摂食嚥下研修など当院の特徴を踏まえた研修や教育を行っていることを説明しました。また、私の部署では、がんの化学療法を行っており、その中で安全な治療が提供できるよう、部署の担う役割を理解し、患者さんの思いに寄り添いながら看護を実践していることを伝えました。さらに、当院は平成30年3月より地域包括ケア病棟（在宅サポート病棟）を開設し、急性期治療や検査後の患者の在宅復帰に向けた支援を行っています。入院中から退院後を見据え、看護師は患者の一番近くにいる存在として、患者さんやご家族の想いを大切にしながら、チーム医療を展開していることを話しました。参加者はこれまでの経験や自身の目指す目標から興味を持つ部署の特徴や看護について具体的に質問したり、認定看護師やリソースナースなどの活動や専門的看護に関心を示していました。また、当院の教育体制を知りサポートしてもらえるという安心感を持てたとの反応や、当院の様々な診療科について説明を聞くことで、看護師・助産師としてさらに経験を積むことができ、自身の目指す看護を実践していきたいとの意見がありました。

就職説明会を通して当院の持つ特徴や魅力を知ってもらい、参加者が当院に就職され、やりがいを感じながら一緒に働くような職場づくりに努めていきたいと思います。

5月26日（土）に国立病院機構九州グループによる平成30年度就職説明会が鹿児島県民交流センターで行われました。宮崎県内3施設を含む九州管内施設が、それぞれの特徴や魅力を個別ブースでアピールしました。213名の参加があり、当院のブースには82名が訪れました。参加者の中には、当院の地域周産期母子医療センターとしての役割を



(5病棟 副看護師長 東郷 綾美)

市民のための健康講座

「市民のための健康講座」も平成30年5月に94回目を迎えました。当院は地域がん診療連携拠点病院であることから、がんの予防、早期発見・早期治療の推進などを目的とした講演の他、日常生活での健康増進に役立つアドバイスなど多彩な内容を講座に取り入れています。年間7回の講演を当院の各診療科医師を中心に、認定看護師、理学療法士、栄養管理士、薬剤師などで行い、それぞれの専門的視点から、健康・疾患予防に役立つ内容を提供しています。毎回の講演を楽しみに来られる市民の方もおり、「運動を続けています」「食事に気をつけています」など、日常生活で実践されている方の声を聞くと、健康講座の必要性と成果を実感します。

今後も、地域医療の充実に向けた取り組みの一つとして入院・治療をされる方だけではなく、地域の市民の健康増進と疾患の早期発見・早期受診へ繋がる取り組みを継続していきたいと思います。

(教育・研修部副部長 和氣 美紀)



看護の日 平成30年5月25日(金)



私たちは、日頃の備えをキーワードに「看護の心、ケアの心、助け合いの心」や「看護」について改めて考えるために看護の日の活動に取り組みました。平成28年4月15日に発生した熊本地震について、3学年合同でグループワークを行い、その後、当時被災したあおば病院の看護部長である花園美佐子先生のお話を聴きました。テレビなどでは知ることのできない看護師の動きやその時の感情、そしてその行動に至った経緯について聞いた時、判断の的確さと行動力に驚いたと同時に今の私では何もできないなと感じました。また、日頃お世話になっている病院関係者の皆さんへ感謝の気持ちを伝えるための清掃活動を行いました。病院敷地内の環境がきれいになることで、入院されている患者さんにも喜んでいただきたいと思いました。今回の看護の日の学びを通して、自分の危機感の無さに気づくことができました。学んだことを活かし、日頃の備えを意識していきたいです。

(1年生代表 鳥井 葵)

看護の日の活動で熊本地震の日頃の備えについて学習会を行い、3学年合同のグループで考えを共有し合うことで、災害を看護師の視点で捉え、知識を深めることができました。また、熊本地震の被害に遭ったあおば病院の避難活動を通じて、教科書からは伝わらないよりリアルな被災地の現状を知り、自分たちの考えの甘さを痛感しました。自分たちが被災者となり、混乱している状況で、患者さんに合わせた看護を提供するためには、精神力、判断力、行動力がとても重要であることを学びました。いつ災害が起きてもおかしくない状況にいる私たちは、日頃から災害が起きた時に、看護師、看護学生として何ができるのかを考えて過ごしていきたいと思いました。



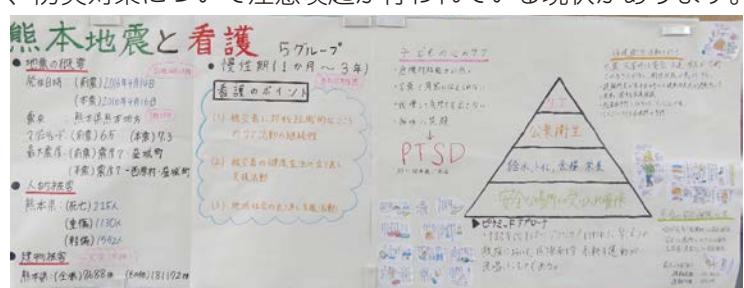
(2年生代表 村岡 輝)



熊本地震後の地域の現状、看護の活動、看護師としての災害の備えについて、各学年で着目する点が異なり、統合してまとめることによって、より良い学習につなげることができました。また、被災地における看護管理と活動の実際について特別講義を受け、被災地の実際をより深く知ることができました。先生のお話の中で、「マニュアルは頭に入っているけれど、様々な混乱によりマニュアル通りに動けない」とあり、看護師は瞬時に状況を判断し、患者さんの安全を守ることができるよう動かなければならないと感じました。また、震災が発生して2年が過ぎ、災害に對しての関心が薄れていく中で、医療従事者として日頃から災害の備えを行わなければならないと思いました。近隣では新燃岳の噴火により、防災対策について注意喚起が行われている現状があります。

災害について改めて考えることができたため、今後も継続して理解を深め、1人の看護師としての役割を担えるように、日々の学習へと取り組んでいきたいと思いました。

(3年生代表 古澤 七星)



連携医療機関の ご紹介

医療法人 与州会
柳田病院

理事長
柳田 琢也 先生



所在地	宮崎県都城市東町10街区17号
TEL・FAX	TEL 0986-22-4850・FAX 0986-21-1988
HP	https://yosukai.wixsite.com/home
診療科目	脳神経外科、外科、内科、小児科、胃腸科、神経科、放射線科、 (救急指定病院) リハビリテーション科
病床数	一般病床45床

柳田クリニック

所在地	宮崎県都城市東町11街区30-2号
TEL・FAX	TEL 0986-22-4862・FAX 0986-21-1987
診療科目	脳神経外科、外科、内科、小児科、救急科、麻酔科、整形外科、 胃腸科、神経科、放射線科
外来受付時間	9:00～13:00、14:00～18:00（平日） 9:00～13:00（土曜日）

昭和43年8月1日に柳田外科医院として開業し、5年後の昭和48年8月に病床数38床で柳田病院を開設しました。平成8年2月に医療法人与州会を設立し、以降柳田クリニック・介護老人保健施設ウエルネス苑都城・訪問看護ステーションウエルネス・グループホームウエルネス・グループホームやすらぎ等の開設を行うとともに病床数を45床まで増床し、現在に至ります。平成20年8月に日本医療機能評価を認定取得し、平成25年8月に更新しました。

当院では脳卒中の急性期治療から交通事故等による頭頸部外傷（むちうち損傷）他、後遺症に悩む患者様の治療、また高血圧や糖尿病、肺炎、認知症等の高齢者の病気にも力を入れております。リハビリテーションも充実しており、治療が必要な方には入院施設でそれぞれの専門職（PT・OT）が対応いたします。

当院の特色としましては、救急科・脳神経外科・外科・内科・小児科・整形外科を主体に、総合的に専門医による診察ができるようになっており、救急車の受け入れも常時行っています。患者様を中心として医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、介護支援専門員などの専門職が力を合わせ一丸となって治療・ケア



に取り組んでいます。

また、医療と介護は連携を持ち、一人ひとりの患者様に対し責任を持ってケアしていくという信念のもと、与州会グループをはじめ医療と介護の連携が充実しています。

病院内外の環境整備にも力を入れ、患者様やご家族、また来院される方々に癒しの空間をご提供できるように心がけています。

最後になりますが、おかげさまで、柳田病院は今年50周年を迎えました。半世紀の永きにわたり、当院を育ててくださいました多くの患者様、職員そして関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

9月下旬にMRIの更新を行います（シーメンス社製）。より充実した医療に取り組んでいきますので、今後共どうぞよろしくお願い致します。



外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成30年7月1日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 **2	血液		前田宏一	休診		
	初診	加藤順也				
	肝					
再診		前田宏一	加藤順也	前田宏一 加藤順也	前田宏一 加藤高智徳	前田宏一 加藤順也
循環器内科		阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎		阿南隆一郎
呼吸器内科	初診		今津善史	今津善史	今津善史	今津善史
	再診					
呼吸器外科	初診		巻幡聰	手術日	巻幡聰	手術日
	再診		巻幡聰 加藤文章		巻幡聰 加藤文章	
小児科	午前	1 診	片山太輔	柳邊秀一	高村一成	襄孝俊
		1 診	柳邊秀一	高村一成	片山太輔	柳邊秀一
	午後	2 診	内分泌・代謝外来 (第二月曜日)	襄孝俊	襄孝俊	片山太輔
		3 診			ジナジス外来 (9月~3月)	
外科	初診	緒方健一	手術日	田中洋	手術日	緒方健一
	再診	田中洋		森永剛司	後藤又朗	杉原栄孝
乳腺専門外来						岩瀬弘敬 (第四金曜日)
消化器病センター	初診	藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人	土肥容子
	再診	駒田直人	藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人
N S T 外来			駒田直人 (第二、四火曜日 14:00~16:00)			
整形外科	初診		吉川教恵	手術日	上黒通一師文	吉川教恵
	再診	吉川教恵 黒木智文	吉川教恵		吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵
リウマチ科			吉川教恵 (再診のみ)		吉川教恵 (再診のみ)	吉川教恵
泌尿器科	1 診		山崎丈嗣	山崎丈嗣	慶田喜文	山崎丈嗣
	2 診	手術日		慶田喜文	川上一誠 福元	慶田喜文
皮膚科 **3			中山文子 (午前)		中山文子 (午前)	中山文子 (午前)
産婦人科	初診	徳永修一	古田賢	徳永修一	古田賢	古田賢
	再診	古田祐美	徳永修一	古田賢	古田賢	徳永修一
耳鼻咽喉科	一般	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	外山勝浩 津曲省吾	手術日
	難聴外来	津曲省吾 (14:00~17:00)				
放射線科	放射線治療	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
	画像診断	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一
歯科口腔外科	一般	田畠雅士 新屋俊明 久保舞	田畠雅士 新屋俊明 久保舞	田畠雅士 新屋俊明 久保舞	田畠雅士 新屋俊明 久保舞	手術日
	ペインクリニック**6					横山幸三 (午後)
	障がい者歯科					森主宜延 (月1,2回)
がんサポート外来 **4						岩崎竜馬
緩和ケア外来 **4						林章敏 (第四金曜日)
特殊外来		マザークラス (第二土曜日・第四月曜日)	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室 (午後)	リンパ浮腫外来	ストーマ外来(午後) 母乳外来 遺伝カウンセリング外来 (14:00~15:00)

[その他の特殊診療]

診療科名等	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内視鏡センター	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管 気管支	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管 (午後より宮大)	上部消化管 下部消化管
透視撮影(胃)	外科	外科	外科	外科	外科
骨塩ドック(骨粗鬆症検査)【予約制(14:00以降)】	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科

*1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。

*2 医療機関の方へ: 血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。

*3 皮膚科の診察時間は、火曜、木曜、金曜の9時30分~13時となっております。

*4 がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前に相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

*5 セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

*6 ペインクリニックは歯科口腔外科を受診された患者様が対象となります。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人
国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行: 広報委員会